ソウゾウしよう、未来。

Arch

岩手県立大学・広報誌［アーチ］

2022.09
83
Autumn

学生たちの一票が未来をつくるチカラになる！

New Generation Action!

KENDAI NAVI

特集 未来ソウゾウ

ソウゾウCAMPUS

ソウゾウ LABO

KENDAI NEWS

岩手県立大学
Iwate Prefectural University

ソウゾウの
ソノサキ。

Graduation Message 02

株式会社 平野組（一関市）

佐藤 日和 さん

2021年3月盛岡短期大学部生活科学科
生活デザイン専攻卒業

生活デザイン専攻で実践的なスキルを修得 女性が活躍できる建設会社で力を発揮

気仙沼市の実家が東日本大震災の津波で流され、自宅を再建したのが中学2年生の時。家が完成するまでの様子や、少しずつ復興していく街並みを間近で見ていて、ゼロからものをつくり上げていく施工管理の仕事に興味を持ちました。

生活デザイン専攻は、設計演習やCAD演習など実践的なスキルが得られる科目が多く、在学中に建築CAD検定3級の資格も取得。建設現場で働くことを希望し、女性技術者の活躍支援に積極的な(株)平野組に就職しました。入社後すぐに掲げた目標は、二級建築士試験への挑戦。学習時間が確保しやすい入社1年目がチャンスだと思い、勉強に励み、合格することができました。

現在、オフィスビルや商業施設、公共施設などの建設現場の安全管理と品質管理を担当しています。竣工後、施主様にお引き渡しをした時の達成感が、何よりの原動力です。

建設業界に就職した生活デザイン専攻の卒業生の中でも、施工管理に関わる人はまだ少ないと思います。授業で学んだ知識や技能は、設計業務のみならず、建設業のさまざまな職種に生かすことができるということを知ってほしいですね。

(株)平野組では、佐藤さんを含め20代の女性技術者5人が施工管理業務に従事しています。作業が円滑に進むよう常に優先順位を付けることや、幅広い年代の職人さんとうまくコミュニケーションを取り、分かりやすい指示を出すことを心がけていると話します。

岩手県立大学
Iwate Prefectural University

看護学部 | 社会福祉学部 | ソフトウェア情報学部 | 総合政策学部 | 盛岡短期大学部 | 宮古短期大学部 |
看護学研究科 | 社会福祉学研究科 | ソフトウェア情報学研究科 | 総合政策研究科

〒020-0693 岩手県滝沢市巣子152-52 ［URL］https://www.iwate-pu.ac.jp ［e-mail］management@ml.iwate-pu.ac.jp
TEL.019-694-2000 FAX.019-694-2001

Copyright © 2022 Iwate Prefectural University. ALL RIGHT RESERVED.

発行:2022年9月30日

New Generation Action!

スポーツやボランティア、同好会など、課外活動はもう一つの学びの場。
いろいろなことに全力で取り組む県大生たちの活動を紹介します。

学生から声を上げることで、選挙や政治をもっと身近に。

選挙があるたびに毎回課題として取り上げられるのが、若者の政治への無関心や投票率の低さです。こうした問題に「当事者である自分たちは何ができるのか？」と考え、啓発活動を行っているのが「県大Voters（ヴォーターズ）」です。

活動のきっかけとなったのは、総合政策学部・市島宗典准教授のゼミでの研究。学生に投票に関するアンケートを取ったところ、ネックになっていたのが、「住民票を異動していないから投票できない」という事実でした。

それを受けて実施したのが、不在者投票支援ブースの設置。出身地の市町村に申請すれば滝沢市でも投票ができることを伝え、投票の後押しをしました。他にも選挙公報の読み方を学ぶ会や政党の選挙事務所を巡るツアーの実施、高校生や他大学との連携など、幅広く活動中です。

「僕らの活動はきっかけづくり。できれば候補者の政策を調べ、しっかりと意思を持って投票に行ってくれたら嬉しいです」と話すのは、代表の遠藤淳史さん（総合政策学部４年）。「選挙の時だけでなく、定期的に政治に関して意見交換できる場を持ち、自分の考えを表明することを当たり前にしたい」と考えています。

県大Votersは、住民票を移していない学生たちに対し、不在者投票ができることを伝えるチラシを配布。出身地の市町村への手続を支援し、投票を呼びかけている。

投票日までのカウントダウンの張り紙を掲示し、投票への意識啓発を図る学生たち。

DATA

岩手県立大学明るい選挙推進サポーター
県大Voters

総合政策学部の市島宗典准教授のゼミで取り組んだ、大学生の投票率を向上させるための研究をきっかけに活動をスタート。大学生の政治参加の促進を目指して、2022年春に「県大Voters」を結成。メンバーは、総合政策学部と社会福祉学部の学生12名。選挙の啓発活動として、不在者投票支援ブースの設置や選挙公報を読む会の開催などに取り組んでいる。

KENDAI NAVI

私たちは、学生の広報部隊として活動するCA（キャンパスアテンダント）。
楽しいキャンパスライフや大学生活の魅力をいろいろご紹介！

購買・学生食堂人気メニュー

鮭丼　提供場所：学生食堂

口のなかでとろける鮭丼はリピート間違いなし！ぜひ温玉と一緒に！

期間限定清水屋生クリームパン

たっぷりのクリームがとろけて美味しい！！数量・期間限定なのでお早めに！

提供場所：購買

学生食堂

お昼休みは大盛況。絶景とともに食べるご飯は絶品です。メニューは日替わり！

昼食場所を聞いてみた！

空き教室

実は、空き教室を使う学生も多いんですよ。冷暖房完備で静か！複数人での利用もOK！

テーマ 県大生のごはん事情

朝　朝食はいつもこれ！バナナとヨーグルトで栄養補給。1日の始まりにコーヒーは欠かせません！

昼　お昼ご飯は研究室で食べています。普段はおにぎり＋ゆで卵かヨーグルトを食べることが多いです！

夜　夜ご飯は自炊しています。主菜は日中韓のいずれかを意識して作ってます。美肌のためにキムチは欠かせない！

1人ぐらしの学生の1日のごはんに密着！

あゆちょ
社会福祉学部4年

デジタル社会を見据えた新たな教育ステージへ！

デジタル技術の進展により、社会生活でのデータの重要性が飛躍的に高まる中、教育現場でも大きな変革が起きています。未来を担う若者たちにとって、デジタル技術の使い方を身につけ、よりよい社会の実現のためにデータを活用する基礎知識を学ぶことはとても重要なことです。そのため、岩手県立大学では2022年度から全学部の新入生を対象とした新たな教育プログラムと、ソフトウェア情報学部の新入生を対象とした新たな教職課程をそれぞれスタートしました。

デジタル社会を見据えた新たな教育ステージへ！

これからの社会を担う「基礎力」を育む

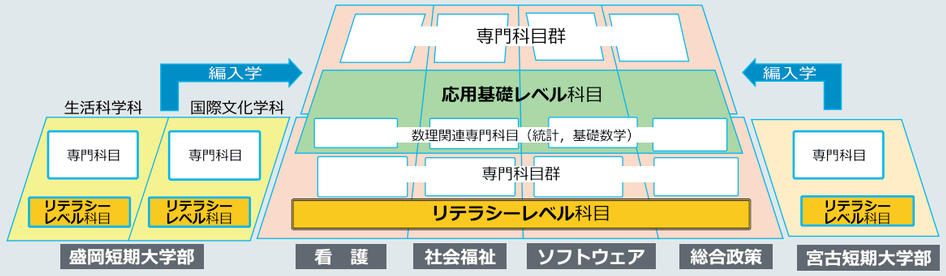
みなさんは実にさまざまな種類のデータに囲まれて暮らしています。たとえば、みなさんのスマートフォンやパソコン、検索サイトやショッピングサイトのサーバー、ブログやチャットのサーバー、さらには気象情報・交通情報・消費者情報・製造情報・農産物生産情報などが収集されているクラウドサービスの中には膨大なデータが記録されています。これらのデータの中から価値ある情報を見つけ出し、それらをもとに判断や行動することができれば、少子高齢化・過疎化などの課題解決、持続可能社会の実現に役立つことにつながります。

こうした社会的なニーズを背景に、今年度から本学では、全学部（看護学部、社会福祉学部、ソフトウェア情報学部、総合政策学部、盛岡短期大学部、宮古短期大学部）の新入生を対象とした「文理融合データサイエンス教育プログラム」をスタートしました。データを数理的に分析する力、データを活用したＡＩ（人工知能）によって課題解決する力は、学部・学科の区別なく、すべての学生が身につけておく素養です。そのため、「個人所有のノートパソコン」を使って、大学での学びや研究に欠かせないパソコンの操作スキルをはじめ、データを取り扱う際の留意事項、データを収集・分析・管理するための知識・技術を体系的に修得するための教育プログラムを開設しました。このプログラムは、全県大生が必修として学ぶ「リテラシーレベル」と、希望者（四年制学部生、短期大学部からの編入生）が発展的な内容を選択として学ぶ「応用基礎レベル」からなります。

盛岡短期大学部でリテラシーレベルの科目を担当する樽松理樹（くれまつまさき）准教授（ソフトウェア情報学部所属）は、この教育プログラムの狙いを「これからの社会を生きていく上で、データを正しく理解・分析し、扱う力を身につけることは、絶対に必要な基礎力です。深く考えずにデータを信じてしまう人もいますが、それが本当に正しいことなのか、冷静にデータを検証し、自分なりに考える力を身につけてほしいと思います」と述べています。

本学が新たにスタートした「文理融合データサイエンス教育プログラム」を修得した学生たちは、卒業後、どのような仕事に就いたとしても、数理・データサイエンス・ＡＩの知識や技術を課題解決に役立てられる人材として活躍が期待されます。

文理融合データサイエンス教育プログラム



文理融合データサイエンス教育プログラム ⇒

未来ソウゾウ＿001
進化する大学教育

デジタル社会を見据えた新たな教育ステージへ！

デジタル社会を見据えた新たな教育ステージへ！

ソフトウェア情報学部 教職課程を強化

日本が目指す未来の姿として、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会が提唱されています。これは、AIやIOTなどのデジタル技術の導入によって、人が「必要な情報を必要な形で」活用できる、デジタル社会を目指す取り組みです。

この一環として、2020年度から小学校でプログラミング教育が必修化され、今年度からは高校において必修科目「情報Ⅰ」がスタートしました。2025年度入試には「情報Ⅰ」が大学入学共通テストの科目として登場するなど、小・中・高校を通じて情報教育の整備が進められています。また、これと並行して、『インダストリー4.0（第4次産業革命）』に向けて、数学的・論理的な思考力こそがイノベーションを起こす原動力であるという数理資本主義（数学が国富の源泉となる経済システム）が提唱され、これまで以上に「数学」と「情報」教育の重要性が増しています。

こうした社会的な動きを踏まえ、教育現場で高まっているのが「情報」教育を担当できる教員に対するニーズです。また、数学と情報を連携させ、ICTを活用して「数学」教育を担当できる教員に対するニーズも高まっており、情報と数学の両方を学修することが望まれます。現在の教育現場では、「情報」以外に「数学」や別の科目も教えられる「複数免許取得者」が求められており、大学にもこうした要望が寄せられていましたが、ソフトウェア情報学部で取得できるのは「情報」の教員免許状だけでした。

新たな教育体制を整えながら 教員志望の学生をサポート

近年の社会的な動きや教育現場のニーズを受け、ソフトウェア情報学部では、情報教育や数学教育の見直しを行い、学部全体を対象とした新たなカリキュラムを編成しました。2022年度から、県内で唯一、「数学」（中学校・高等学校教諭）と「情報」（高等学校教諭）の一種免許状が同時に取得できる教職課程を開始しました。

新カリキュラムでは、学びの核となるコース演習、ゼミナール、卒業研究といった科目を中心に、情報系科目と数学系科目を関連づけながらスパイラルに学ぶことができる構成に改編されています。情報の教科に関する科目については本学部の専任教員が担当し、数学の教科に関する科目については本学部内の数理系の専任教員に加え、数学の博士号を持つ非常勤教員も招き、より高度な教育を行っていきます。このような新カリキュラムと教育体制によって育成するのは、デジタル社会を担う子どもたちを指導できる教員です。深い数学的素養を身につけつつ、デジタル技術を活用した教材なども作ることができる新時代の教員を輩出していきます。

また、教職課程で学ぶ学生たちのために、2021年度から全学的な組織である「教職教育センター」が設置され、今年度からは学部内に「教職課程委員会」が発足しました。互いに連携を取りながら、教職関連の情報提供や教員採用試験に向けたサポートなど、優れた教員を養成できる環境づくりも進めています。

高校との連携をさらに広げ 数学・情報教育をリードする

この春、新入生161名に対して調査を行ったところ、約4分の1の学生が教育課程の履修を希望していました。全体的には「数学」と「情報」の両方の教員免許の取得を希望する学生が多い傾向にあります。

岩手県の教員採用試験では、高等学校教諭の受験者のうち、「情報」の免許状を持つ者に対する加点措置があるため（令和4年度現在）、情報系科目を専門とするソフトウェア情報学部での学びが役立ちます。また、「数学」と「情報」の免許状を取得していると、両方の科目を教えることができる貴重な教員として、県内の教育現場での活躍が期待されます。

「卒業生たちが県内各地の高校で教えるようになると、高大連携がさらに広がり、高校の段階から多様な情報教育やプロジェクトを行ったり、卒業生の教えている姿を見た生徒たちが本学部を志望するなど、人材育成の循環が生まれていきます。優れた教員を育て、各地域に還元することは、岩手に対する大きな社会貢献につながります」。このように教職課程を担当する児玉英一郎准教授は話しており、教員を目指す学生たちの夢をサポートしながら、岩手全体の数学と情報教育の充実を目指しています。

新時代を担う教育者を育成するため 今年度から教職課程を強化！

＜情報教育を取り巻く背景＞
◎学習指導要領における「情報」と「数学」の連携
◎2022年度から高校での情報教育の拡充
◎大学共通テストの科目として「情報Ⅰ」新設
◎情報教育を担う教員に対するニーズの高まり

↓

岩手県内で唯一、3つの免許状を同時取得！

高等学校教諭一種免許状「情報」

中学校教諭一種免許状「数学」

高等学校教諭一種免許状「数学」

＜取得のメリット＞

❶「情報」と「数学」のダブルメジャー
「情報」と「数学」の免許状を取得していると、両方の科目を教えることができる貴重人材として、教育分野に貢献できる。

❷「情報」免許状取得者に加点措置
岩手県公立学校教員採用試験では、高等学校教諭の受験者で「情報」免許状を有する者（または取得見込みの者）に対する加点措置がある。（令和4年度現在）

＜免許状取得に必要な科目＞

ソフトウェア情報学部の卒業要件に必要な科目に加え、「教育の基礎的理解に関する科目等」「教育の指導法に関する科目」などを修得する必要があります。

from Student

「数学」と「情報」の免許状を取得し、教員採用試験のアドバンテージに。

滝川 すみれ さん［ソフトウェア情報学部１年］

私の将来の夢は、数学の教師になることです。でも、進路の可能性を少しでも広げておきたいと考え、数学の免許状も取得でき、企業就職の道も選択できる岩手県立大学に進学しました。入学後に「情報」の免許状も取得できると知り、「数学」と「情報」の両方の教職課程を履修することを決意。故郷の宮城県でも「情報」の教員に対するニーズが高まっていると聞き、両方取得していれば教員採用試験の際にも有利だと考えたからです。専門科目に教職課程の授業が加わることで、かなり大変になるとは思いますが、取得できる免許状には全部挑戦してクリアすることが目標。これから始まる教職課程の授業が楽しみです。

⇐「数学」と「情報」が学べる新カリキュラムの整備

未来ソウゾウ＿001
進化する大学教育

ソウゾウCAMPUS

ピアいぷ

ソウゾウ_Campus03

中高生と同じ目線に立ちながら、思春期の悩みに寄り添っていく

活動内容を企画する学生たち

ピアカウンセリングという言葉を聞いたことがありますか？ピアとは「仲間」という意味で、仲間に寄り添って不安や悩みを一緒に考え、問題解決を支えていく活動のこと。看護学部の学生サークル「ピアいぷ」も、中高生へのピアカウンセリングを主な目的として、平成15年から活動を続けています。

ここ数年は、中学校や高等学校の依頼を受け、性や恋愛のこと、対人関係のことなど、生徒たちの悩みや関心があることをテーマに活動を行っていましたが、コロナ禍によって昨年は活動を休止。現在は2023年の再開に向けて、ピアカウンセラー講座を受講するなど、カウンセリングの知識やスキルを磨いています。

「中高生にとって大学生は、年齢も近く話しやすい存在。同じ目線に立てる私たちだからこそ、彼らの悩みに共感できたり、一緒に考えることができると思うんです」と話すのは、代表の及川結さん（看護学部2年）。他にも養護教諭を目指す一部のメンバーが、小学校で児童の学習をサポートする活動も行っていますが、相手が誰であっても必要となるのはコミュニケーション力。看護学部の授業や実習での学びを現場で活かせることが、「私たちの強み」だと及川さんは言います。実践の場はもう少し先ですが、メンバーは中高生と活動ができる日を楽しみにしています。

ソウゾウ_Campus04

ドローンの可能性を広げ、地域に役立つ新たな活動を

サークルが撮影した大学校内の映像

空からの映像撮影だけでなく、農業や測量、災害調査など、様々な分野で活用されているドローン。昨年度から宮古短期大学部でも、平田哲兵講師のゼミでドローンを活用した研究が行われており、宮古市内の3漁協と連携して漁場の磯焼け（海藻が減少し繁茂しなくなる現象）調査に取り組んでいます。このゼミ研究を通してドローンの操作や活用に興味を持った学生たちは、この4月にメンバーを募って「ドローンサークル」を発足。これまでにない新たな活動として、学内外から注目を集めています。

メンバーは現在14名で、「ドローンの資格を取りたい」「動画編集をやってみたい」など入部理由はそれぞれですが、目標はドローンを使って「地域貢献」を行うこと。大学の紹介動画の制作や地元イベントでの子ども向けドローン講座の開催、操作タイムを競うドローンレースへの出場など、様々な活動を始めています。

「上空125メートルまで飛ばした時、そこから見えた海の景色がとてもきれいで。普段の視点とは違う世界を見られるのが楽しいです」と魅力を語るのは、代表の佐藤明日香さん（2年）。来春、岩手県立大学へ編入学する佐藤さんは、滝沢キャンパスでもドローンサークルを立ち上げ、宮古と滝沢の学生同士の交流をつなぐ架け橋にしたいと考えています。

ソウゾウ LABO #03

Cast
高等教育推進センター **大谷　実** 講師

Theme
シンティ・ロマの包摂と排除をめぐる歴史研究：
ナチスと戦後西ドイツ社会

Profile
東京都出身、上智大学文学部卒。東京外国語大学地域文化研究科修士課程を修了後、会社員を経て、同志社大学経済学研究科博士課程を修了。2021年に岩手県立大学高等教育推進センター講師に就任。休日は森林散策や温泉めぐりで岩手暮らしを満喫している。

よりよい未来のヒントを、歴史から学ぶ

大谷先生が研究するシンティ・ロマの迫害の歴史についての書籍と研究論文。

授業の様子

「シンティ・ロマ」とは、かつて、ヨーロッパにやってきたシンティ族、ロマ族の総称。国を持たない彼らは、「ジプシー」などの呼称で差別を受け、ナチス・ドイツ時代には、ユダヤ人とともにホロコースト（大量殺戮）の犠牲になりました。

「ユダヤ人がナチスから迫害を受けていたことはよく知られていますが、シンティ・ロマも迫害されたことを知る人は少ない。ならば自分が光を当てようと思ったことが、研究に取り組むきっかけでした」。

そう話す大谷実先生は、大学で西洋史を専攻。ナチスについて調べる中でシンティ・ロマに興味を持ち、以来、その迫害の歴史を研究し続けています。「ドイツでもマイナーな研究で、まだ解明されていないことも多い。だからこそオリジナルの研究ができる楽しさがあり、自分が取り組む意義を感じます」。

修士課程を終了後、ドイツと取引のある企業に就職。しかし「もっと研究を深めたい」という気持ちが募り、再び研究の道へ。「少し遠回りだったかもしれませんが、大学の外に出て、いわゆる〝一般的な社会人〟として働いたことは、社会とマイノリティのかかわりを研究する自分にとって、貴重な体験でした」と振り返ります。

公文書などの資料から当時の国の政策や社会背景を検証し「マイノリティがどう扱われてきたか」を紐解いていくのが研究の柱。「歴史は変えようのない過去の出来事と思われがちですが、〝いま〟の状況や価値観によって、歴史の捉え方も、得られるものも変わっていきます」と、大谷先生。歴史研究は、過去を学ぶのではなく、「過去に学ぶ」もの。かつてのドイツ社会のありようは、いまのヨーロッパ情勢とも重なる部分が多く「悲劇を繰り返さないために、歴史から得た学びを未来にどう生かすかが大切」と話します。

高等教育推進センターのホームページ⇒

ソウゾウ LABO #04

Cast
社会福祉学部 **本間　萌**（めぐみ） 講師

Theme
高齢期のボランティア活動、
回想法・ライフレヴュー

Profile
北海道出身。岩手県立大学社会福祉学部、岩手県立大学大学院社会福祉学研究科前期課程修了。神奈川県でソーシャルワーカーとして働いた後、日本福祉大学にて社会福祉士養成に携わる。2021年岩手県立大学に着任。コーヒー好きで、喫茶店をめぐるのが休日の楽しみ。

誰かの人生に触れることで、多くのものを受け取っている

回想法で使用する道具　さいかちの実と木槌

本間先生が携わっている回想法の書籍と研究論文。

人生の思い出を語り合い、共感し合うことを通じて、自分という存在を肯定し、他者との交流を促す「回想法」。1960年代にアメリカの精神科医ロバート・バトラーの提唱にはじまる心理療法で、日本では高齢者等を対象に、認知症や社会的孤立を予防する一つの手法としても活用されています。

本間先生が回想法と出合ったのは、本学の学生のとき。所属ゼミの野村豊子教授（当時）が日本における回想法の第一人者で、そのフィールドワークに同行したのがきっかけでした。

「宮古市で回想法を実践しているボランティアの活動にお邪魔したのですが、高齢の参加者の方々が、初対面にもかかわらず昔の話を通してすぐに打ち解け、笑顔で帰って行ったのが印象的で。当時、学生でまだ若かった私にはピンと来なかったものの、『昔を思い出す』ってどういうことなんだろう、と興味を持ちました」。

認知症予防として注目されがちな回想法ですが「それよりも私は、語りを通して人と関わる心地よさや安心感など、社会的な面での意義を考えたい」と本間先生。特に着目しているのが、ボランティアによる実践。日本では各地でボランティアによる回想法の取り組みが展開されています。

「学生時代から関わっている宮古のグループは、聴き手であるボランティアも同じ地域で暮らすシニア世代。言葉や文化など共有している部分が多いので、話し手の満足度も高くなる。土地に伝わる風習や歴史など聴き手が得るものも多く、支援する・されるという関係を超えたつながりが生まれます」。

誰かの人生や思い出に触れることは、自分の人生も豊かになること。これは回想法に限らず「私たちは、他者との関わりを通じて多くのものを受け取っている」と本間先生。ソーシャルワークを学ぶ学生たちにも「いろいろな人と出会い、たくさんの学びを得てほしい」と呼びかけます。

⇐活動紹介

「性」の学び合いを通して、自身の生き方を見つめる

岩手県立大学は「国連アカデミック・インパクト（※）」に加盟して、グローバルな視点から地域課題に向き合う取り組みを進めています。その一つとして掲げているのが、「持続可能性（SDGs）の推進」。異なる価値観を持った相手を理解することは、互いを認め合い、尊重することにつながります。今回は、「性」をテーマとして、性の多様性や問題について学び合う、学生たちの活動をご紹介します。

「性」に対する問題意識をみんなで共有、大学生全体の意識・関心を高める活動を

私たちは生まれた瞬間から、「男女」に分けられ、そのくくりの中で育てられてきました。しかし近年、「身体の性」と「心の性」が一致しないトランスジェンダーや、性的指向が多様なセクシュアルマイノリティなど、様々な価値観があることを知る機会が増えています。また、体のメカニズムや異性との交際に関わる問題など、学校での性教育についても正しい知識を伝える重要性が議論されています。

こうした性に関わることを学び合い、知識と意識を高めるため、看護学部の学生が中心となって立ち上げたサークルが「7Life（セブンライフ）」です。「保健体育の授業で性の知識を学んだつもりではあったんですが、実際に自分が交際を始めた時に知らないことがたくさんあると気づいたんです。そこから、日本の性教育そのものに関心が生まれ、もっと学びたいと考えるようになりました」と話すのは、代表の山田真帆さん（看護学部3年）。自分の考えを教員に話したところ、「学生同士で学んでみたら？」と後押しを受け、石本早紀さん（看護学部3年）と一緒にこのサークルを立ち上げました。

メンバーは、看護学部と総合政策学部の学生17名。月1回の勉強会では、担当となった学生が関心のあるテーマを取り上げて資料を発表し、みんなで議論しながらテーマについて掘り下げます。例えば、セクシュアルマイノリティを表すLGBTのこと。例えば、月経のことや避妊のこと、日本の中高生の性教育の現状についてなど、勉強会のテーマは多岐にわたります。

「サークルを通して様々な知識に触れ、いろいろな活動をしている人と出会うことで、新たな輪が広がっています。看護とは違う学びを得ることが楽しいですし、意識が変わりました」と、石本さんは話します。普段の勉強会はメンバー内での活動ですが、一般学生の参加を呼びかける会も開催するほか、2021年度は図書館とコラボして性に関連する様々な本を紹介するコーナーも企画しました。多くの学生が本を手に取り、関心が高いこともわかったといいます。

「サークル名にLifeという言葉を入れたのは、性について考えることは自分の人生について考えることだから。性は、命や個人の尊厳にも関わる大事なことです」と山田さん。多様な価値観を学び、自他の生き方を認め合うことは、相互理解を深める上で大切なこと。他大学との連携や中高生への性教育も視野に入れながら活動を通して学びを深めています。

右から「7Life」を立ち上げた山田真帆さんと石本早紀さん。サークル名の「7」は多様性を象徴する虹を表す数字と教えてくれました。

（※）国連アカデミック・インパクト（UNAI）とは？

国連アカデミック・インパクトは、各大学が社会貢献をしながら、国連と世界各国の教育機関の活動を連携させることを目的としたプログラムで、国内でも85機関が加盟（2022年１月現在）。岩手県立大学では、UNAIに関連する様々な取り組みが行われていることから、2019年５月に加盟しました。

本学では［原則６：国際市民としての意識向上］［原則８：貧困問題への取組］［原則９：持続可能性（SDGs）の推進］［原則10：異文化間の対話や相互理解の促進］、以上の４つの原則に取り組んでおり、異文化理解のためのイベントやワークショップ、海外留学を活用した社会課題を解決する学習プログラム、海外の大学とのSDGsの課題に関する活動を実施。グローバル社会における各地域や国、世界における大学の社会的役割を追求していきたいと考えています。

本学の2020年度の国連アカデミック・インパクト活動報告書はこちら⇒

KENDAI NEWS

岩手県立大学のニュースやイベントなど、旬のトピックスをご紹介します。

岩手県立大学入学式を挙行！滝沢・宮古で784人が学生生活をスタート。(4/5、4/6)

4月5日に宮古短期大学部、翌6日に岩手県立大学、大学院、盛岡短期大学部の入学式が行われ、滝沢キャンパスでは計681名が、宮古キャンパスでは103名が新たな学生生活をスタートさせました。

滝沢キャンパス

宮古キャンパス

副専攻「いわて創造教育プログラム」修了証授与式を挙行(5/12)

副専攻「いわて創造教育プログラム」第４期生修了証授与式を挙行し、９名の学生に修了証と「いわて創造士」の称号が授与されました。

鈴木厚人学長文化功労者選出を祝う講演会を開催(5/18)

鈴木厚人学長が令和３年度文化功労者に選ばれたことを祝う講演会（主催：岩手県国際リニアコライダー推進協議会）が開催されました。鈴木学長は、「私の研究歴・三度目の正直」と題し、研究を振り返るとともに、ILC（国際リニアコライダー）の実現に向けて「一直線に進みたい」と意気込みを語りました。

宮古キャンパス ２年ぶりにスポーツ祭を開催(6/17)

宮古キャンパスの恒例行事であるスポーツ祭が開催されました。感染症対策を徹底して行われ、会場は盛り上がり、白熱した大接戦が繰り広げられました。

「いわて減塩・適塩の日」特別企画！「適塩弁当」の販売(6/28)

岩手県の健康課題のひとつである「脳卒中死亡率の減少」に向けて、㈱マイヤと栄養学を専門とする盛岡短期大学部の有志者が共同で「適塩弁当」の発売に取り組みました。適塩弁当は、令和４年６月から令和５年５月までの毎月28日「いわて減塩・適塩」にマイヤグループ20店舗で販売しています。

滝沢キャンパス オープンキャンパスを開催(7/3)

県内の高校生等を対象に３年ぶりに対面型のオープンキャンパスを開催しました。当日は約1,500名の高校生等にご来場いただき、各学部による説明や模擬講義、工夫が凝らされたパネル展示等を行いました。本学Ｗｅｂサイトでは、360度カメラを使用したキャンパスツアーや学部紹介動画を掲載したWebオープンキャンパスも開催しておりますので、ぜひご覧ください。

Webオープンキャンパス

宮古キャンパス オープンキャンパスを開催(7/28、29、8/20)・授業公開(7/25～29)

宮古キャンパスを会場にオープンキャンパス及び授業公開を開催し、多くの高校生、保護者の方々等にご来場いただきました。宮古短期大学部の施設見学、教育内容等の紹介や授業の見学を通し、宮古短期大学部について理解を深めていただく機会となりました。

ソフトウェア情報学部MinaLab（南野研究室）がラーニングイノベーショングランプリ2022で奨励賞を受賞(7/13)

これまでにない学習・教育方法やスタイル、革新的なラーニングテクノロジーを発掘し、新たな学習・教育環境を社会に提案することを目的とした産学連携イベント「ラーニングイノベーショングランプリ2022」において、MinaLab（ソフトウェア情報学部・南野研究室）チーム（代表：ソフトウェア情報学研究科　千田小百合さん）が奨励賞を受賞しました。

公開講座を３年ぶりに対面で開催

「ここからはじまる、いわての未来」をテーマに、令和４年度岩手県立大学公開講座・滝沢キャンパス講座を３年ぶりに対面で実施。本学教員が専門的な立場からわかりやすい講義を行います。本学公式YouTubeチャンネルからも視聴できますので、ぜひご覧ください。

大学公式YouTubeチャンネル

３年ぶりの盛岡さんさ踊りにさんさ踊り実行委員会が参加(8/3)

「咲」をテーマに活動している岩手県立大学さんさ踊り実行委員会が盛岡さんさ踊りパレードに参加しました。
初めてパレードに参加する学生も多く、学生の元気な掛け声とともに沿道を盛り上げました。

編集後記

今年度最初のArchをお届けしました。最後まで御覧いただきありがとうございます。

前期は対面のオープンキャンパスや公開講座の開催、盛岡さんさ踊りへの参加など、コロナ禍で中止やオンラインで配信せざるを得なかったイベントも、徐々にこれまでの活動が戻ってきていることを実感し、教職員の間では「やっぱり学生の笑顔が見られるといいね」との声が聞こえています。

引き続き感染症対策を徹底しながら各種活動に取り組んでいきます。（企画室・坂本）

岩手県立大学SNS公式アカウント

岩手県立大学の公式アカウントでは、大学の最新情報を発信しています。Twitter（@Iwate__puPR）、Facebook（@IwatePU）でフォローしてください。YouTube（Iwateprefuniversity）はチャンネル登録をお願いします。

Present!!

岩手県立大学広報誌Archへの御意見・御感想や、広報に関する皆様の御意見をお聞かせください。抽選で10名に1,000円分の「図書カードNEXT」をプレゼントします。以下のURLかQRコードにアクセスして、アンケートフォームからご応募ください。

https://forms.gle/ius3YYBpWB8zeMhe7